

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立堅田中学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

«概要»

国語、数学、理科ともに全国、滋賀県の平均を下回る分野が多くありました。しかし、国語では「資料を整理して自分の伝えたいことを明確にしたり、表現を工夫したりする内容の問い合わせ」、理科では「身近な生活や経験を元にした問い合わせ」には平均やそれを上回る正答率が見られました。また数学や理科の質問紙では「好き」「授業の内容がよくわかる」の問い合わせに対して、肯定的な回答をした割合が平均を上回りました。基礎的内容の問い合わせに対する無回答率も低く、前向きに粘り強く学習に向かおうとする姿勢が見られました。

生徒質問紙では多くの項目で全国、滋賀県の平均と同様に前向きな回答が見られました。中でも「学級で話し合い活動を通じて自分の考えを深めた」や「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」の問い合わせに対する前向きな回答が平均を上回っていました。このことから、集団の中で人と協力し、規範意識をもって学校生活を送っていることがわかりました。

«強み»

- ☆国語では、語彙の理解に関する問題や、授業で繰り返し学習した内容の定着が見られました。
- ☆数学では、式の計算などの数字や図をもとにした問題では全国、県平均並みの正答率でした。
- ☆理科では、「好き」「得意」「わかる」「将来役立つ」など、肯定的に回答した生徒が過半数で、全国平均を上回りました。
- ☆ICT機器を授業で「ほぼ毎日」使用し、ICT機器の活用能力に関する質問においても前向きな回答が高かったです。このことから、ICT機器を生徒自らが自信をもって活用できていると考えられます。

«弱み»

- ★国語や数学では、記述式の問題への無回答率が高く、書くことに対する苦手意識が見られました。
- ★理科では科学技術に関する仕事について、科学的要素が役立つことは理解していますが、それを活かした仕事に就きたいとはあまり思わない、という回答が多く見られました。
- ★多くの項目で前向きな回答が見られる一方で、「どちらかといえば」の解答率が滋賀・全国平均よりも10ポイント以上高い項目が多く、自信をもって「している」「当てはまる」と答える生徒が少ないと自分有用感が低い傾向が見られました。
- ★授業以外の普段の学習時間が「2時間以上学習している」割合が滋賀県や全国平均よりも10ポイント以上低く、学習習慣が確立できていない課題が見えてきました。

【指導の充実に向けて】

- *国語では、自分の考えを言葉や文章にしたり、根拠を明確にして書いたりする練習を、授業で積極的に取り入れます。
- *数学では、学習内容を覚えるだけでなく、『なぜそうなるのか』を自分の言葉で説明できるように、授業の中で『考えを言葉にする練習』を増やしていきます。
- *理科では、可視化できるモデルや実物を示したり身近な材料で気軽にできる実験を行ったりして、仮説を立てて事象を確かめる場面を多く持つとともに、些細な事柄でもメモを取らせ、ペアやグループワークの中で意見を交流する機会を増やしていきます。
- *集団の中でもよりよく活動ができる【強み】を生かし、教師主導の授業ではなく、生徒同士が高め合える授業を展開していきます。さらに学んだ内容を「授業以外の場でも活用したい」「さらに深く学びたい」と思うように、教師からの声かけや働きかけを工夫していきます。